

京都芸術大学 紀要

論文の定義・査読およびチェック体制について

二〇二〇年度より、紀要に掲載する論文の種別・定義を以下のように明確化しました。
また、論文系・作品系を問わず、査読およびチェック体制についても左記の通り整備しました。

〈論文系〉

種別	定義	査読およびチェック体制
研究論文 (査読付論文)	学術上の新知見を含み、専門的な討論に耐える高度な内容を有するもの	専門分野の研究者二名(学外の専門家に委嘱する場合がある)による査読を行う。 査読の結果、修正要求事項等があった場合は、再査読となる場合がある。 重大な瑕疵が見出された場合、再査読によっても十分な水準に達さない場合は、不採用となることがある。
研究ノート	学術上の価値が認められる一定の考察を含み、今後研究論文としての結果が期待できるもの	学内の専門分野教員が全体的な完成度について確認を行う。 詳細な査読は行わないが、瑕疵が著しい場合などには、不採用となることがある。
調査報告書 その他	実験、フィールド調査、文献調査等によって得られた、学術的な検討が期待されるデータ群、資料等を中心としてまとめられたもの	紀要委員が確認を行う。 詳細な査読は行わないが、瑕疵が著しい場合などには、不採用となることがある。

〈作品系〉

【査読およびチェック体制】

紀要委員が確認を行う。詳細な査読は行わないが、瑕疵が著しい場合などには、不採用となることがある。